

新年のごあいさつ



南越前町長

川野 順万

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様方には、輝かしい新年をご家族お揃いでお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。さて、私が町政を担わせていただき、早3年が経過いたしました。その間、各事業の実施に際し、町民の皆様方の温かいご理解と絶大なご協力を賜り衷心より厚く御礼を申し上げます。

昨年は、1月の大雪災害に始まり、3月11日の東日本大震災はまさに衝撃的で、想像を絶する壊滅的な被害となりました。特に、福島原子力発電所の事故は、これからのエネルギー政策を転換させる極めて大きな出来事であり、14基の原発を抱える福井県にとっても、敦賀1・2号機から8キ圏内にある本町にとっても極めて深刻な問題であります。

そんな中で、本町としましては、6月議会で地域防災計画の見直し業務やヨウ素剤・放射線測定器の購入の予算化に取り組みむとともに、7月には岐阜県羽島市と災害時における相互援助協定を締結しました。また、10月には、県内で先頭をきつて地震・津波・原発事故を想定した町民総参加の総合防災訓練を実施し、町民の防災意識を高めていただいたところであります。今後は、防災避難道路として、国道305号ホノケ山トンネルの早期開通をはじめ、他市町と接する県道の改良などの要望を展開し安心安全なまちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

一方、財政面においては、地方交付税や電源交付金の大幅な削減が予想され、大変厳しい状況にあります。今後、これまで以上に行財政改革に取り組み一層の経費削減をすすめ、県や他市町との連携を強化し、これからの地方自治が抱える課題の解決を図るとともに、活力と魅力のあるまちづくりに全力を挙げて取り組んでいきたいと考えております。

それでは、私が進めてまいりました我が町の平成23年度の《5つのまちづくり》の具体的な事業の取り組みと進捗状況について、ご報告させていただきます。

まず、1つ目の「町民に優しいまちづくり」であります。町公共施設のバリアフリー化の実施、婚活イベントの開催、町障害福祉計画と介護保険事業計画の策定に取り組みでまいりました。

次に、2つ目の「安全安心して暮らせるまちづくり」であります。総合防災訓練の実施、役場庁舎別館耐震大規模改修工事の実施、今庄診療所の院外処方への移行、今庄老人保健施設の医師招聘、民間介護施設の開設、雇用促進住宅にかわる町営住宅12戸の建設、南条地区の消雪工事や町道の改良維持補修工事、小型除雪機の要望集落への貸与などに取り組んでまいりました。

次に、3つ目の「活き活きと働けるまちづくり」であります。国の緊急雇用事業等による雇用創出、山海里集落支援事業、林道開設改良事業、国庫補助事業による農業用排水路工事の実施、花はす・そば・水仙等特産品生産奨励事業、鳥獣害対策の強化支援、町産業物産フェアの開催支援、積極的な観光客の誘致活動の実施に取り組んでまいりました。

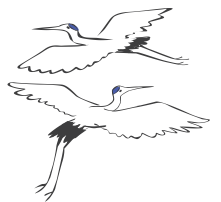
次に、4つ目の「人と文化を育むまちづくり」であります。河野児童館新築事業、河野中学校耐震大規模改修事業の実施、男女共同参画の推進などに取り組んでまいりました。

最後に、5つ目の「住民主体のまちづくり」であります。地上デジタル放送移行に伴う関連機器の整備、CATVインターネットの充実、地区集会所増築改修事業の支援、今庄そば道場等の公共施設の今後の運営の在り方の検討、花はす温泉そまやま等の指定管理者の更新等に取り組んでまいりました。

以上が、公約であります《5つのまちづくり》の進捗状況であります。今後とも、町民の皆様方のご理解、ご協力をいただきながら、多様化する行政需要に積極的に取り組み、町民福祉の更なる向上に努めていきたいと考えております。

この新しき年が、町民の皆様方にとりまして、幸多き年となります事を心よりご祈念申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

年頭にあたり



南越前町議会議長

向瀬 英渡

新年明けましておめでとうございます。
ます。

輝かしい平成24年の新春を、皆様と共に迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。

また、日ごろから議会に對しまして格別のご理解とご指導、ご協力を賜り、議会を代表して心から厚く御礼申し上げます。

昨年を顧みますと、1月末から2月にかけて降り続いた雪は、今庄では観測史上最大となる244cmを記録し、そして、3月11日、東日本大震災が発生し、津波による福島第一原発事故も伴い、未曾有の大災害となりました。多くの尊い命が奪われ

たことは、決して忘れてはならない出来事であります。

また、夏には各地で記録的な猛暑が続き、9月に入ってから是非常に大型で速度の遅い台風12号・15号が、日本列島全体に豪雨による災害をもたらしました。

国政では、菅内閣から野田内閣に交替しましたが、引き続き問題が山積しており、災害復旧・復興対策、環太平洋連携協定（TPP）交渉、普天間基地移設問題、社会保障と税の一体改革など、いまだ先が見えていません。

このような社会情勢の中、本町議会6月定例会では、3月11日に発生

した東日本大震災により被災された方々に対する積極的な支援に取り組みむことはもとより、福島第一原発事故は、原子力発電所隣接自治体である本町にとっては憂慮に堪えない事態であるため、町民の生命と安全・安心な暮らしを守る責任を担う議会として、人命を最優先にした防災体制を検証し、同様の事故を再び引き起こすことのないように、防災対策の強化に取り組むことを決議いたしました。

併せて、議員提案で「福島第一原発事故を踏まえた県内原発の安全対策にかかる意見書」を採択し、県内に14基の原発を抱えている中、河野地区は原発から8kmしか離れていない距離に位置することから、福島第一原発事故を踏まえ、町民の生命、財産を守るために必要な施策を講ずるよう、福井県知事ほか関係機関に原発への安全対策を強く要望いたしました。

7月には、本町議会が中心となって嶺北地方の永平寺町、池田町および越前町とで組織する嶺北町村議会

議長会を設立しました。今後、町議会間の情報交換をはじめ研鑽を図り、地方自治の発展に取り組みます。

さらには、皆様に理解を深めていただくような議会活動を展開するため、本会議における一般質問の方法を、従来の一括質問、一括答弁方式と併せて、一問一答式の導入を協議し、12月議会定例会から本格的に導入いたしました。

今後も「町民に開かれた議会」「分かりやすい議会」を目指してまいります。私たち議員も町民の皆様の声を町づくりを生かせるように議会活動に邁進していく覚悟でございます。最後になりましたが、町民の皆様には、今年もこれまで以上のご理解とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。併せて皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。